

# 大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム 第3期ステージ1

## 公募説明会



2026年4月23日

スタートアップ・技術移転推進部

スタートアップ第1グループ



## 科学技術振興機構

# プログラム

**18:00 早暁プログラムおよび公募に関するご説明**

**18:30 質疑応答**

# プログラムおよび公募に関するご説明

## Index

- I. 早暁プログラムについて
- II. 公募・選考について
- III. 提出資料および応募方法について

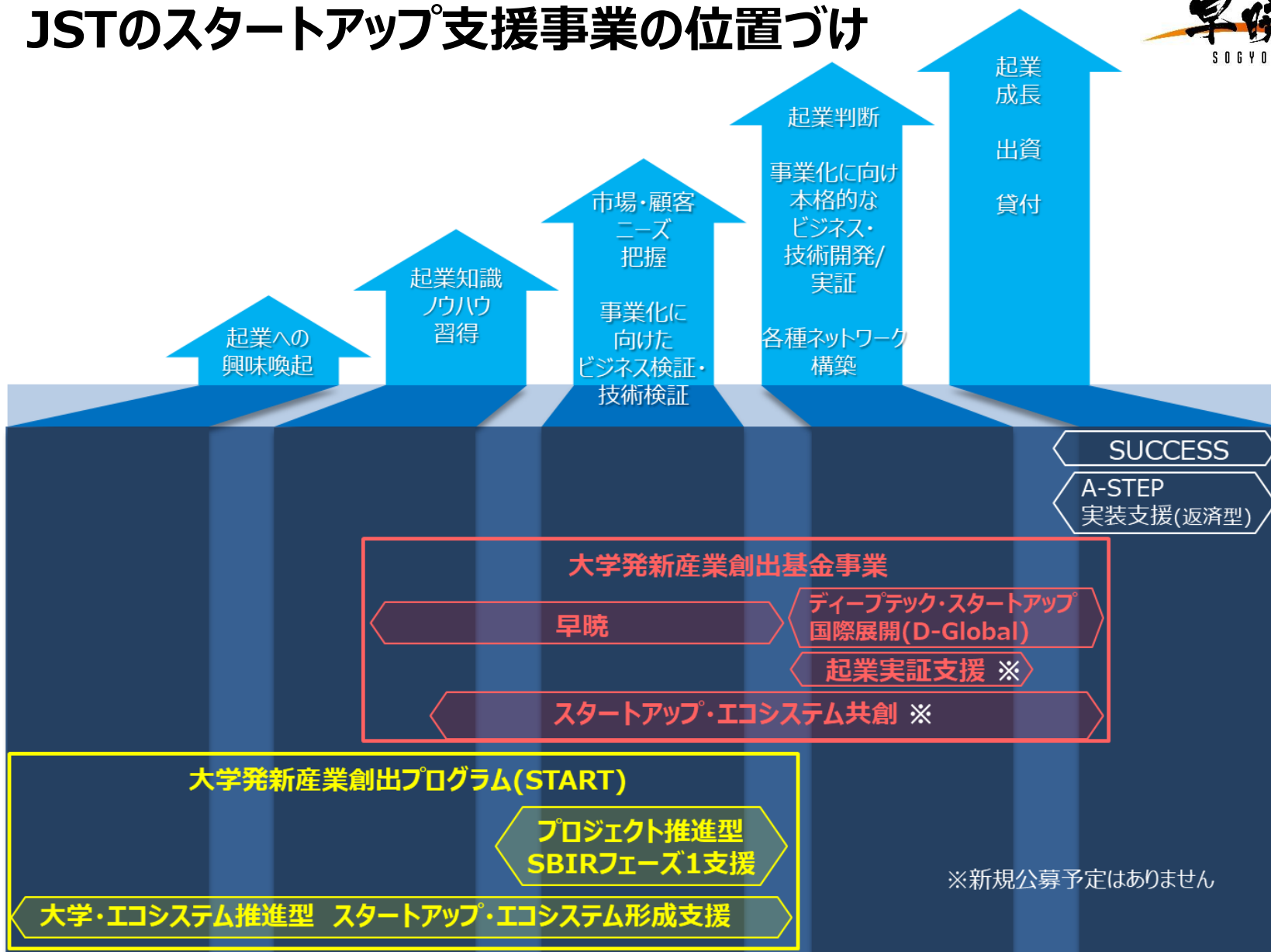
# Index

**I. 早暁プログラムについて**

II. 公募・選考について

III. 提出資料および応募方法について

# JSTのスタートアップ支援事業の位置づけ



# 国際展開する大学発スタートアップの創出と 高校生等へのアントレプレナーシップ教育の拡大

令和4年度第2次補正予算額

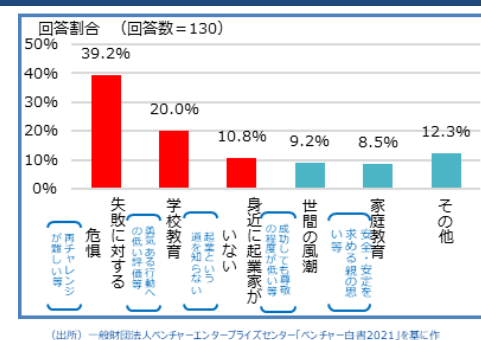
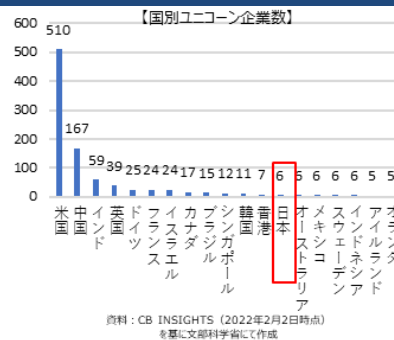
1,500億円



※施設整備502億円については、地域中核・特色ある  
研究大学の振興の一部と重複計上

## 背景・課題

- ✓ スタートアップ5年で10倍増を視野に、スタートアップを強力に育成するとともに、国際市場を取り込んで急成長するスタートアップを創出していくためには、**大学発スタートアップ創出力の抜本的強化**が必要
- ✓ そのためには、創業前から、**国際市場への展開可能性を検証するための支援や、地域の大学等から生まれる技術シーズへの支援**、起業を志す人材育成の機会を抜本的に拡充することが重要
- ✓ そこで、スタートアップ創出元年である令和4年度から、**国際展開も見据えたギャップファンド等の支援を大幅に拡充**するとともに**アントレプレナーシップ教育の機会を高校生等へと拡大**する



## 事業内容

大学発スタートアップの創出を強力に支援するため、国際市場への展開を目指すスタートアップの創出も含めて支援するギャップファンドプログラムを実施する基金を創設するとともに、地域の中核大学等への施設やスタートアップ創出環境の整備、アントレプレナーシップ教育の高校生等への拡大に向けて以下の取組を行う

### 大学発スタートアップ創出の抜本的強化

事業実施期間：令和4年度～（原則5年間）

- 大学発スタートアップ創出を支援するギャップファンドプログラムの新設
- 拠点都市や地域の中核大学等の技術シーズに対して、海外の専門家等からのメンタリングなどとセットで国際市場への展開可能性を検証するギャップファンドプログラムを創設し、国際市場への展開を目指すスタートアップ等の創出に取り組む

### 大学発新産業創出基金事業 988億円【基金】

文科省

→ 補助金

JST（基金）

→ 委託

大学・研究者

- 地域の中核大学等のスタートアップ創出体制の整備
- 大学発スタートアップ創出の抜本的強化に向けて、地域の中核大学等を中心に、地域の金融機関や他大学等と連携して、優れた技術シーズ等を活用した起業を進めるためのエコシステム形成に取り組む

### 起業家層の拡大に向けたアントレ教育の高校生等への拡大 -EDGE-PRIME Initiative-

**10億円**

- スタートアップ創出の抜本的拡大に向けて、その基盤となる人材の量や多様性を増やすため、拠点都市を中心にアントレプレナーシップ教育の機会を、優れた理数系の才能を有することも始め、将来設計の入り口である高校生等へ拡大
- 件数・単価：1.2億円程度×8拠点
- 交付先：JSTを通じて大学等を支援

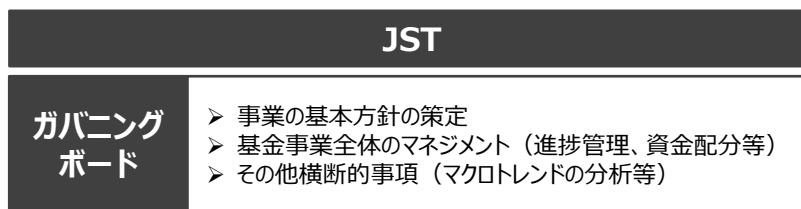
### 地域中核・特色ある研究大学の連携による 産学官連携・共同研究の施設整備事業

**502億円（※）**

- 研究力の向上戦略の下、大学間の連携を通じて地域の中核・特色ある研究大学として機能強化を図る大学による取組に対し、共同研究拠点化に向けた施設やオープンイノベーションの創出等に必要な施設の整備を支援
- 件数・単価：20億円程度×25件程度
- 交付先：大学

※地域中核・特色ある研究大学の振興の一部と重複計上

# 大学発新産業創出基金事業の全体像



事業全体を統括

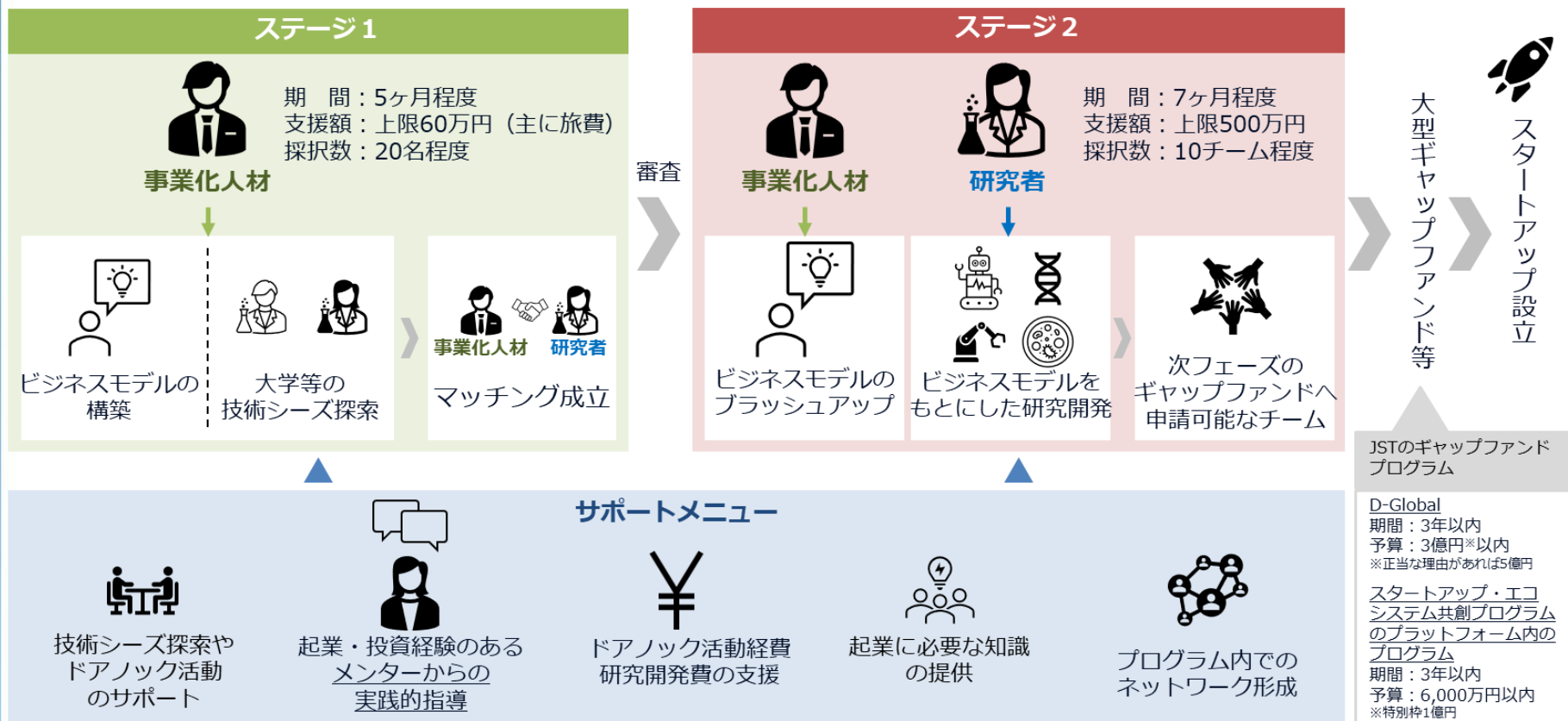


- |             |  |
|-------------|--|
| <b>目指す姿</b> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会・経済にインパクトを生み、国際展開を含め事業成長するポテンシャルを有する、大学等のアカデミアから生まれるスタートアップ（大学等発SU）の創出を、質・量ともに格段に充実させる</li> <li>2. 大学等発SUの継続的な創出を支える、人材・知・資金が循環するエコシステムの仕組みを全国に形成すること</li> </ol> |
|-------------|--|

# プログラム概要

大学等発スタートアップ創出に向けて、ビジネス視点を持つ事業化人材\*が、起業経験や投資経験等を有するメンターによるメンタリングを受けながら、自らが描いた事業化構想を実現させるために大学等の技術シーズを探索し、研究者\*\*とチームになってビジネスモデルのブラッシュアップと研究開発を推進し、次のフェーズ(大型ギャップファンド等)への移行を目指すプログラム

- \* 事業化構想分野の専門知識とビジネスに関する知識がある人材
- \*\* 事業化人材が提示するビジネスモデルに合わせて研究開発を行う大学等の研究者



※ ステージ2において事業化人材は研究代表者（および主たる共同研究者）を兼ねることはできません。

# プログラムオフィサーからのご挨拶

## チームアップによってイノベーションを創り上げていく実現と喜びを

日本国内の大学で生まれ、世界に革新をもたらす可能性を秘めた科学技術については、大学等の研究機関、行政、産業界から社会実装・事業化への取り組みが強く求められています。その期待に答える一つの方法として、技術を編み出したアカデミアの方と事業化を行う方（経営者人材）がチームを組んで事業化に取り組むアプローチがあります。

この経営者人材には、サイエンス・技術を理解し、権利・利害関係を調整し、資金を調達し、チームをつくり、潜在顧客・顧客の声を聞きながら製品・サービスとしての磨きをかけ、技術からビジネスとして収益を生み出していく力が求められます。また、前提には、技術を編み出したアカデミアの方との強い信頼関係を構築する人間力も求められます。いわば、経営の総合格闘技であり、これらの能力を身につけるには、実践が最大の方法と思います。ただ実践すること自体、簡単なことではありません。

そこで、このプログラムでは、将来の経営者人材になりうる人材（事業化人材）がこれら多岐にわたる活動を実践し、事業化の実現を成し遂げた第一線で活躍する起業家・投資家等がメンターとなり、メンターの経験に基づく助言を個別に直接受けながら、事業化を目指すことができるという、現時点、とても稀有で、また、高い可能性をもったプログラムとなっています。

是非、このプログラムを通じて、大学の研究成果を用い、また、メンターを含む強力なチームをつくり、世に革新をもたらす大きな事業を構築していくチャレンジを楽しんで頂けたらと思います。



### 古川 尚史

東京大学協創プラットフォーム開発株式会社（東大IPC）マネージングパートナー

1995年日本銀行入行。その後、2000年7月から約2年間、ボストン・コンサルティング・グループで勤務したのち、起業。ベンチャー企業の経営に携わる。2007年から2015年には経営共創基盤でディレクターを務め、ハンズオン型の経営改革に従事。2021年より東大IPCに参加。東大IPCの経営・戦略企画、投資および事業開発、投資先へのハンズオン経営支援を管掌。2015年以降、NECライティング（株）取締役、サンバイオ（株）執行役員、（株）イノフィス代表取締役社長・会長を歴任

# プログラムの特色と主なメリット

早暁プログラムは、各機関における個別研修や、外部機関の既存の研修コース等では得られない特色とメリットがあります。

① メンタリング	✓ 起業経験や投資経験等を有するメンターによる実践的な指導・助言を受けることができます。
② 知識習得	✓ プログラムへの参加をとおして、将来のスタートアップ起業を見据えたビジネスモデルの構築に関する知識を得ることができます。
③ ネットワーク構築	✓ 将来スタートアップの経営者を目指す、多様な分野やセクターに属する意欲の高い事業化人材が、相互を刺激し研鑽しながら本格的な討議やプログラム参加者が一堂に会する会議などに参加することで、プログラム修了後も引き続き切磋琢磨できるネットワークが構築できます。
④ ビジネスモデル構築 (ステージ1)	✓ スタートアップの第一線で活躍するメンターやスタートアップへの投資経験を豊富に有するメンターからのメンタリングを受けつつ、様々な情報収集やインタビューなどを通じて、ビジネスモデルの構築、高度化に取り組むことができます。
⑤ 活動費 (ステージ1)	✓ ステージ1の活動にかかる国内外の旅費はJSTより支給します (上限60万円)。
⑥ 研究開発とビジネス モデルブラッシュアップ (ステージ2)	✓ ステージ2では、事業化に向けた研究開発やビジネスモデルのブラッシュアップをメンターによるサポートのもと、推進することができます。
⑦ 研究開発費 (ステージ2)	✓ ステージ2に採択となった場合、1課題当たり500万円程度 (直接経費) を上限としてJSTが研究開発費を支援します。
⑧ 兼業・副業可能	✓ 現職がある方も、終業後や休日を利用して参加いただくことが可能です。

# メンター

事業化人材は、ドアック活動やビジネスモデル構築のため、月2回程度を目安に**起業経験や投資経験等**を有する**メンター**による**指導・助言**を受けることができます。



**秋枝 静香**  
株式会社サイフーズ  
代表取締役



**奥原 啓輔**  
プラチナバイオ株式会社  
代表取締役CEO



**川上 登福**  
株式会社  
先端技術共創機構(ATAC)  
代表取締役



**菅原 充**  
株式会社QDレーザ  
Founder&最高技術顧問



**関水 康伸**  
株式会社Provigate  
代表取締役CEO



**長尾 昂**  
京都フュージョニアリング  
株式会社  
共同創業者



**西村 邦裕**  
株式会社テンクー  
代表取締役社長



**関 弘圭**  
株式会社Liberaware  
代表取締役



**吉井 幸恵**  
リンクメッド株式会社  
代表取締役社長

# 実施内容（ステージ1）

<p>① 技術シーズ 探索活動</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 事業化構想を基に技術シーズの探索のための<b>研究者訪問</b>等を行います。その際、JSTが提供する技術シーズリストを活用することも可能です。</li><li>✓ 事業化人材と研究者のマッチング成立後、両者はビジネスモデルの検討、及び必要な研究開発計画の立案等を進め、<b>ステージ2のための申請書作成</b>を行います。</li></ul>
<p>② メンタリング</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ ドアノック活動やビジネスモデル作成について、<b>起業経験者等のメンターからの指導・助言</b>を受けます。</li></ul>
<p>③ ネットワーク 形成</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 人脈形成、ビジネスモデルブラッシュアップを目的とした<b>キックオフ会議に参加</b>します。</li><li>✓ Slack等のオンラインコミュニケーションツールでの意見交換を通して、メンター・事業化人材の間の<b>ネットワーク形成</b>を図ります。</li></ul>

# 実施内容（ステージ2）

① ビジネスモデルのブラッシュアップ	✓ 事業化人材は、研究者の技術シーズを活用したビジネスモデルのブラッシュアップ、および仮説検証のための <b>顧客ヒアリング</b> や <b>市場調査</b> 等を行います。
② 研究開発	✓ 研究者は、ビジネスモデル仮説を検証するために必要となる <b>研究開発</b> を行います。
③ メンタリング	✓ ビジネスモデルブラッシュアップ活動のため、月2回程度を目安に <b>メンターによる指導・助言</b> を受けます。必要に応じて研究者の同席も可能です。 ✓ 人の紹介等、人脈形成のためのサポート等を受けることができます。
④ ネットワーク形成	✓ 事業化人材はビジネスモデルブラッシュアップやネットワーキングを目的とした <b>キックオフ会議に参加</b> します（チームを組む研究者も参加可能）。 ✓ Slack等のオンラインコミュニケーションツールでの意見交換を通して、メンター・事業化人材・研究者の間の <b>ネットワーク形成</b> を図ります。
⑤ 成果報告会	✓ 活動終了時には、クローズドの <b>成果報告会</b> を行います。

# プログラムの実施スケジュール（ステージ1）



		ステージ1										ステージ2							
		2026年			2027年							2028年							
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
選考	★採択通知 (10月中下旬)																		
	活動に必要な書類の作成																		
活動	★キックオフ会議 (11月下旬予定)																		
	★採択通知 (7月上中旬)																		
		技術シーズ探索、メンタリング、研修 (11月中下旬～2027年4月23日)										ビジネスモデル作成、研究開発、メンタリング、研修							
		★キックオフ会議 (11月下旬予定)										★キックオフ会議							
												成果報告会★ (3月上旬)							

① 技術シーズ探索	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 研究者訪問 等</li> <li>✓ ステージ2への申請書作成</li> </ul>	①ビジネスモデルの高度化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 顧客ヒアリング</li> <li>✓ 市場調査 等</li> </ul>
② メンタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ メンターによる指導・助言</li> </ul>	②研究開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 研究者による検証</li> </ul>
③ ネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ キックオフ会議</li> <li>✓ Slack等のオンラインツール</li> </ul>	③メンタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ メンターによる指導・助言</li> </ul>
		④ネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ キックオフ会議</li> <li>※研究者も参加可能</li> </ul>
		⑤成果報告会	

# プログラムの実施スケジュール（ステージ2）



		ステージ1									ステージ2								
		2026年			2027年						2028年								
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
選考	★採択通知 (10月中下旬)																		
	活動に必要な書類の作成																		
活動	★キックオフ会議 (11月下旬予定)																		
	★キックオフ会議 (3月上旬)																		

技術シーズ探索、メンタリング、研修 (11月中下旬～2027年4月23日)  
 スタージ2申請 (3月上旬～4月23日) 審査/手続き  
 ★採択通知 (7月上中旬)  
 ビジネスモデル作成、研究開発、メンタリング、研修  
 成果報告会★ (3月上旬)

① 技術シーズ探索	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 研究者訪問 等</li> <li>✓ スタージ2への申請書作成</li> </ul>	①ビジネスモデルの高度化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 顧客ヒアリング</li> <li>✓ 市場調査 等</li> </ul>
② メンタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ メンターによる指導・助言</li> </ul>	②研究開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 研究者による検証</li> </ul>
③ ネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ キックオフ会議</li> <li>✓ Slack等のオンラインツール</li> </ul>	③メンタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ メンターによる指導・助言</li> </ul>
		④ネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ キックオフ会議</li> <li>※研究者も参加可能</li> </ul>
		⑤成果報告会	

# Index

I. 早暁プログラムについて

**II. 公募・選考について**

III. 提出資料および応募方法について

# 公募概要（ステージ1・ステージ2）



本プログラムは**ステージ1**と**ステージ2**で構成されており、**2段階の選考**を実施します。

**ステージ1**では、**事業化人材を募集**します（本公募説明会の対象とする公募）。

**ステージ2**は、研究代表者と**ステージ1**に採択されている**事業化人材**から構成される**研究開発チーム**を募集します。

	ステージ1	ステージ2
実施期間	5ヶ月程度 (令和8年11月中下旬~令和9年4月下旬)	7ヶ月程度 (令和9年8月下旬~令和10年3月末)
支援額	上限60万円（主に旅費） ※国内・国外いずれも対象、活動実績に基づきお支払い ※旅費はJSTの規定に基づき算出 ※1人1回学会参加費も活動経費から支出可	上限500万円（直接経費） ※研究代表者の所属機関とJST間で契約を締結
採択件数	20名程度	10チーム程度
公募期間	令和8年4月10日（金） ~7月13日（月）正午	令和9年3月上旬 ~4月23日（金）正午 予定
選考期間	令和8年7月中旬 ~10月中旬(面接は9/5-6)	令和9年6月上中旬~7月中旬
採択者 決定通知	令和8年10月中旬~下旬	令和9年7月下旬
活動開始	令和8年11月中下旬~	令和9年8月下旬~

# 応募者の要件 (ステージ1)

以下の①～⑥の**全ての要件**を満たしていること。

## ■【活動条件】

<p>① 各種知識 実務経験</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実務経験や知識（（ア）および（イ）いずれも必要）を有すること。</li> <li>（ア）事業化を目指す技術分野の知識</li> <li>（イ）ビジネス経験、もしくは MBA、MOT 取得やアクセラプログラム・アントレプログラム受講等を通じて身につけた事業化の知識</li> </ul>
<p>② 意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大学等発スタートアップの創出に向けて、メンターによるメンタリングを受け、ステージ 1 では技術シーズ探索とビジネスモデルの構築を行い、ステージ 2 申請に向けた活動を行うこと。ステージ 2 では主にビジネスモデルのブラッシュアップ活動を行うこと。</li> </ul>
<p>③ 目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>既存企業の新規事業や技術移転を前提としての応募ではないこと</b></li> </ul>

## ■【手続きへの対応】

<p>④ 承諾</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 応募者が企業・研究機関等に所属する場合は、<b>本活動に従事することへの承諾</b>を事前に得ること。</li> </ul>
<p>⑤ 言語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 提案や採択後の活動にあたり<b>必要な日本語スキルを有すること</b></li> <li>✓ <b>提案物は日本語で作成</b>いただきます。</li> </ul>
<p>⑥ その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 応募時に、研究活動における不正行為もしくは研究費の不正受給や不正使用に関わる参加資格の制限などに抵触していないこと。</li> <li>✓ 反社会的勢力、あるいはそれに関わる者との関与がないこと。</li> <li>✓ 期間中は、<b>日本国内に居住し、国内で活動可能</b>であること。</li> </ul>

# 選考の観点（ステージ1）

以下の観点を中心に審査を行います

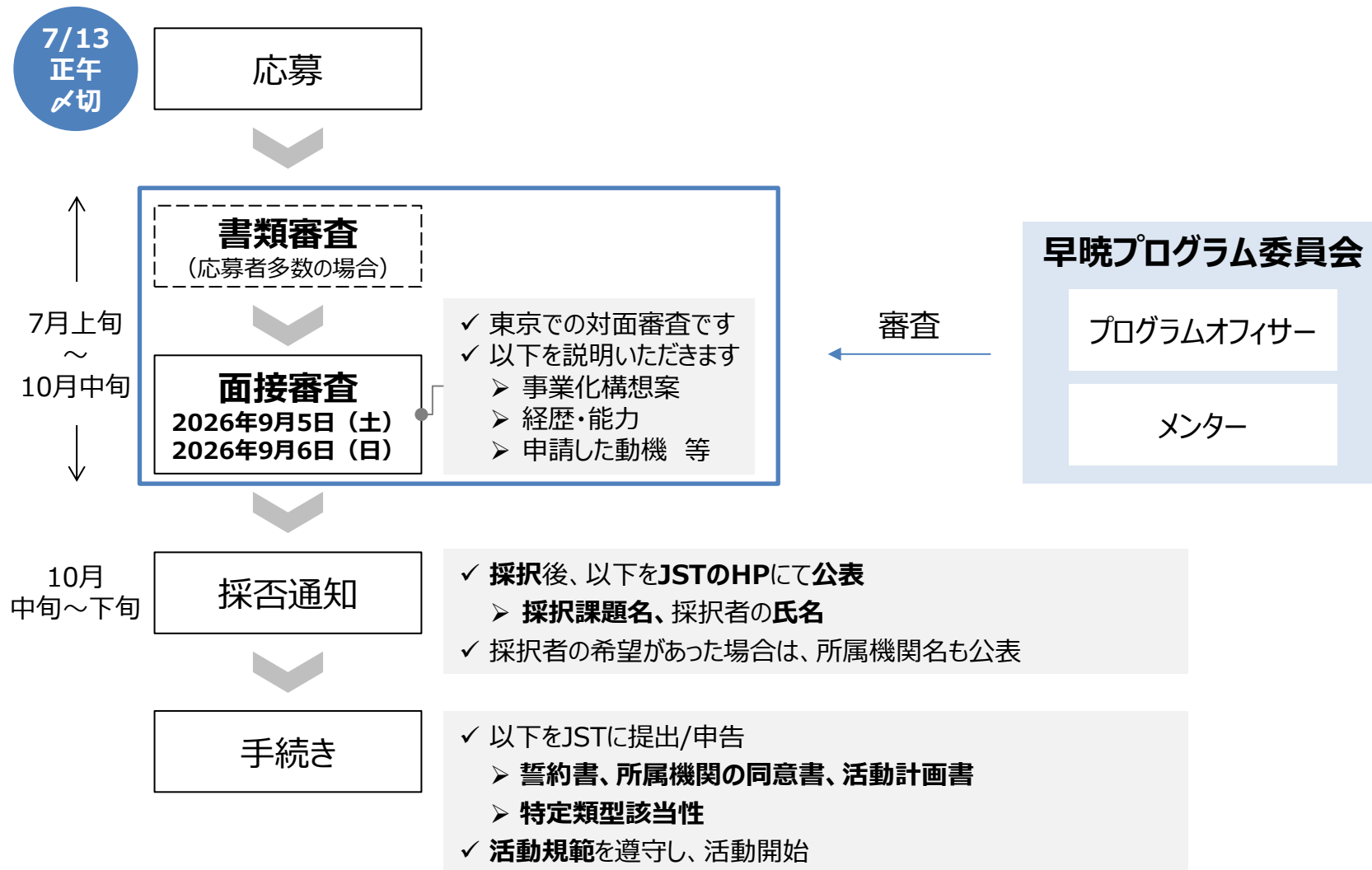
<p>① 事業化構想</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 事業化構想が適切・明確に設定できているか。</li> <li>✓ 事業化構想の実現性や成長性が期待できるか。</li> <li>✓ 大きな市場を目指しているか。</li> <li>✓ 競争優位性を有する事業化構想となっているか</li> </ul>
<p>② 技術シーズの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 事業化を目指す技術分野の知識を有しているか。</li> <li>✓ 大学等発技術シーズを活用して、課題解決に向けた活動ができるか。</li> </ul>
<p>③ 能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 事業化構想を実現するための能力や経験を有しているか。</li> <li>✓ 課題の解決策および、解決にあたって注目するシーズを選定した理由について、論理的に説明できているか。</li> </ul>

※上記に加え、面接では以下の「**事業化人材に必要な資質**」の各項目も踏まえて審査します。

<p>事業化人材に必要な資質</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 自らの事業化構想を持ち、それを実現するために大学等発研究シーズを活用し、将来的にディープテック・スタートアップの起業を目指す意志があること。</li> <li>✓ プログラムオフィサー（PO）やメンター、研究者と積極的にコミュニケーションをとり、本プログラムでの活動を行うこと。</li> <li>✓ 提案時の事業化構想を軸にしつつも、メンター等の他者の視点も取り入れてブラッシュアップを行い、必要に応じピボットを行うこと。。</li> <li>✓ 受身でプログラムに参加するのではなく、主体的に活動すること。</li> </ul>
--------------------	---

# 選考方法（ステージ1）

早暁プログラム委員会が、書類審査と面接審査を行います。



# Index

I. 早暁プログラムについて

II. 公募・選考について

**III. 提出資料および応募方法について**

# 提出資料・応募方法 (ステージ1)

応募書類は、**1つのPDF形式の電子ファイル**にまとめ、**申請フォームからご提出**をお願いいたします。  
 プレゼン動画は、**申請フォーム中に記載のリンク**からご提出をお願いいたします。

## 書類

### 基本情報

- ✓ 基本情報
- ✓ 略歴・経験
- ✓ 熱意やコミットメント



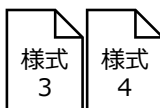
### 事業化構想

応募者が想定している事業化構想



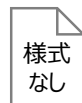
### その他

1. 個人情報に関する同意書
2. 各種確認書



【組織に所属していない方】

3. 推薦状  
 ※推薦者の氏名、所属、役職、連絡先

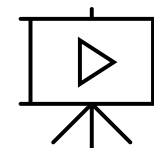


## 動画

### プレゼン動画

- 以下を含めること (3分以内)
- ✓ 自己PR
  - ✓ 想定している事業化構想

様式なし



動画の作成要件は記載要領ご参照

- ✓ ファイル名は【氏名.拡張子】としてください (例: 科学太郎.mp4)。
- ✓ 拡張子は「.mov」「.mp4」のいずれか。
- ✓ 50MB 以下 (推奨動画仕様: 解像度/フレームレート = (1280×720) /30fps)。

- ✓ 白黒・カラーは問いませんが、審査が適切に実施できるように配慮してください。
- ✓ **日本語**でご用意いただき、ファイル名に必ず【**ご提案者氏名**】を入れてください。
- ✓ 紙書類、郵送による提出は不可です。
- ✓ 提出後1時間が経っても受付メールが届かない場合、JST事務局にお問い合わせください。

# 応募の注意事項（ステージ1）



① 修正・差替え	✓ 公募締切後に、書類の不備等による書類の修正、差替えは <b>一切受け付けません</b> 。
② 追加対応	✓ 選考過程において、JST事務局から応募内容等について問い合わせを行うことや、追加資料の提出を求める場合があります。
③ 規定違反	✓ 応募資格を満たさない応募者からの応募、提出書類に不備がある場合、提出書類に法令違反・公序良俗違反の内容を含む場合、この公募要領に規定する形式に反する場合は、 <b>応募自体を無効</b> とさせていただきます。
④ 書類の返却	✓ 提出された <b>応募書類は返却いたしません</b> 。

# 個別相談会

第3期ステージ1公募にあたって、個別相談会を実施しています。

## <個別相談会（オンライン開催）>

- ・平日（土日祝以外）の10:00～17:00で、個別相談会を実施しています。
- ・おひとり30分程度を想定しています。
- ・ご希望の方は、下記フォームより候補日時をいくつかご入力ください。

※時間外でのご相談をご希望の場合には、下記フォームから備考欄にその旨を記載して、お申し込みください。

個別相談会 開催申し込みフォーム



[https://form2.jst.go.jp/s/sogyo\\_koubo2026\\_soudan](https://form2.jst.go.jp/s/sogyo_koubo2026_soudan)

# プログラム紹介動画

「早暁プログラム 創業に挑戦する事業化人材たち」を現在、Youtubeで公開中です。



早暁プログラム 創業に挑戦する事業化人材たち 【第2期ステージ1 申請受付中】

JST Channel  
チャンネル登録者数 2.55万人

チャンネル登録

高評価 共有 保存



<https://youtu.be/xdokycWWNcw>

# 事前にいただいたご質問への回答

Q: 推薦状の提出が必要な対象者について、FAQには「フリーランスや自営業等の方を想定」とFAQに記載があるが、自営業は自身で起業した法人の代表者も含まれるか。それとも法人格を有さない個人事業主のみ必要か。

A: 推薦状をご提出いただく必要がある自営業の方ですが、法人格を有さない個人事業主の方を想定しております。法人の代表者の方におかれましては、推薦状のご提出は不要です。

Q: 過去の選考において不採択となったが、対処方法はあるか。

A: 選考の観点を今一度ご確認くださいとともに、不採択の理由をお送りしているかと存じますので、ご参考としていただければ幸いです。

Q: 活動経費について、JSTから事業化人材への支払いが20万円を超えた場合、確定申告を実施する必要はあるか。

A: 活動費については、JSTの規程に基づき、旅費等のご負担いただいた実費分をお支払いするため、源泉徴収の対象となる報酬・料金に含まれません。このため、確定申告を実施いただく必要はございません。

Q: ディープテックと認定される技術分野の指定はあるか。

A: 大学等の技術シーズ、研究成果を用いたスタートアップの創出を目指すのであれば、本プログラムの対象となります。

# 事前にいただいたご質問への回答

Q: ステージ1に応募する段階で、特定のシーズに絞っていたほうがよいか。応募してからシーズを探すことはできるか。

A: ステージ1活動の中で、シーズ探索活動を実施いただきますので、応募段階で特定の研究者の先生と組んでいただく必要はございません。ただし、申請書内には事業化構想実現のために注目するシーズを記載いただく必要がありますので、想定されているシーズをご記載ください。申請段階で研究者の先生にコンタクトいただく必要はございません。

Q: 選考時に優先される技術領域はあるか。

A: 特にありません。

# JST事務局およびお問い合わせ先



## 【JST事務局】

〒102 -0076

東京都千代田区五番町7 K's五番町

国立研究開発法人科学技術振興機構

スタートアップ・技術移転推進部スタートアップ第1グループ

## 【お問い合わせ先】

Email : [sogyo@jst.go.jp](mailto:sogyo@jst.go.jp)

※個別の提案に係る選定経過等に関しては、一切回答できません。